



郷土の偉人 世界に誇る 発明王

Toyoda Sakichi

豊田 佐吉

(とよだ さきち)

1867-1930(慶応3年-昭和5年)

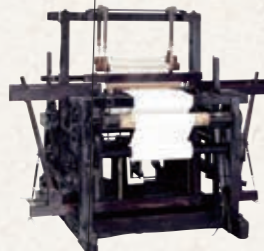


障子
開き
外は広いぞ

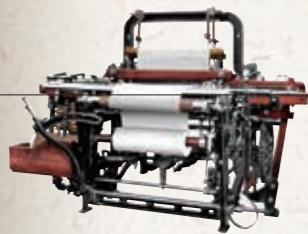
豊田佐吉の発明した主な織機



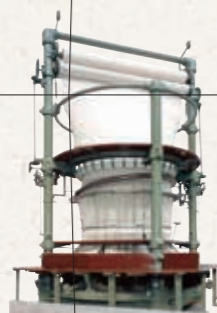
とよだしきむくせいじんりよくしよつき
●豊田式木製人力織機
1890年(明治23年)



とよだしききりよくしよつき
●豊田式汽力織機
1896年(明治29年)



とよだしきてつせいじどうしよつき
●豊田式鉄製自動織機(T式)
1903年(明治36年)



かんじょうしよつき
●環状織機
1906年(明治39年)



むていしひがえしきとよだじどうしよつき
●無停止杼換式豊田自動織機(G型)
1924年(大正13年)

郷里を、日本を裕福にしたい…

豊田佐吉は、1867年(慶応3年)2月14日、遠江国敷知郡山田村(現在の静岡県湖西市山口)に生まれました。佐吉は、小学校を卒業すると父・伊吉の木工仕事を手伝っていましたが、貧困にあえぐ村の暮らしを見て「郷里の貧乏を救わなければならない」という郷土愛に燃えるようになりました。そして佐吉の郷土愛は祖国愛に変わっていき、その祖国愛を実現する方法が「発明」だったのです。「発明」によって、日本の産業を発展させ、日本を裕福な国にしようと考えたのです。

母の姿を見て、自動織機の発明を志す

しかし、一体何を発明したらいいかは容易に定まりませんでした。そんなときについたのが、母の機を織る姿でした。1887年(明治20年)、佐吉はこの手織機の改良を志し、寝食を忘れて研究・工夫に熱中しました。そして、1890年(明治23年)、ついに最初の発明「豊田式木製人力織機」を完成させたのです。その後も佐吉は研究を続け、1896年(明治29年)には「豊田式汽力織機」を発明するなど、その発明及び実用新案は生涯を通じて119件にものぼりました。

世界に追いつけ、追い越せ

また、佐吉は、1910年(明治43年)には初めて欧米に渡り、その広大な国土、機械を使った効率的な農業、工場の設備の巨大さ、機械の精巧さに驚きました。しかし、織機・紡績工場を見学してみて、自分の発明した織機が必ずしも世界の一流品に劣るものではないという自信を持ち、その後も開発を進めました。

そして佐吉の「世界に追いつけ、追い越せ」の執念は1924年(大正13年)に完成させた「無停止杼換式豊田自動織機(G型)」によって実を結び、世界に認められたのです。佐吉のこの歩みが、自動車をはじめとする日本の産業の著しい発展の礎となりました。その功績を認められ、特許庁より「日本の十大発明家」として顕彰されています。

障子を開けてみよ、外は広いぞ

佐吉が中国に工場を建設しようと上海に渡り、紡績業を視察したのは1918年(大正7年)のことでした。しかし、当時の両国の関係から、日本企業の進出は困難であったこともあり、あえて進出する必要はないと周囲の人々は反対しました。佐吉は、両国の親善の大切さを力説し、「障子を開けてみよ、外は広いぞ」と周囲を説得したといわれています。そして、1921年(大正10年)、上海に豊田紡績廠を設立します。

豊田佐吉記念館

トヨタグループ創始者、豊田佐吉翁の生誕120年を記念して、佐吉翁生誕の地に1988年10月に建てられました。復元された生家を中心に、佐吉翁が発明した数々の織機やゆかりの品々を展示しています。また佐吉翁が両親のために建てた母屋や、織機の発明を始めた納屋(佐吉翁生家跡の奥に建てていたものを移したと言われている)など、記念館全体が佐吉翁の歴史全てを物語っています。

〒413-0292 湖西市山口113-2
TEL 053-576-0064
開館 9:30~17:00(4月1日~9月30日) / 9:30~16:30(10月1日~3月31日)
休館 毎週水曜日(但し、水曜日が祝日の場合は翌木曜日が休館日)
年末 12月26日~12月31日、年始 1月6日~1月8日
2月最後の水曜日の直前の月・火曜日、9月第1水曜日の直前の月・火曜日
入館料 無料



妙源寺 湖西市坊瀬 162

佐吉翁が明治8年(1875)から4年間通った寺子屋跡。和尚より、「日本は土地が狭く貧しいために外国から馬鹿にされている。それには勉強せんといかん。」との教えをうけました。そして、のちにこの寺子屋時代の親友と夜学会を開く契機ともなりました。また、後年発明研究の過程でくじけそうになったとき、寺を訪ねては和尚から激励をうけて奮起したといわれています。

